

事業の推進方針

十勝は、北海道らしい雄大な景観、四季折々の自然環境が多くの観光客を呼び、また、地域で収穫される農水産物は安全・安心・美味しさを誇る資源豊富な地域です。また、アドベンチャートラベルのポテンシャルも高く、国内外の観光需要は高まっています。これまでに先人が培ってきた資源を活かし、また持続的に発展させるためには、農水産業の生産の場となる「生産空間」を維持・発展させ、市街地や観光の場、輸送拠点を効果的に結びつけた十勝圏域全体を見渡した社会資本整備が必要です。

帯広開発建設部は、北海道総合開発計画に基づき、十勝地域の強みである「食」と「観光」、「再生可能エネルギー」を担う「生産空間」を支えるため、農林業の競争力・付加価値の向上、管内の交通・物流ネットワークの強化を図ります。また、「道の駅」の活用・充実を図ることにより観光客の広域的な移動・交流を促し地域連携を深めるとともに、かわまちづくりやサイクルツーリズムを通じた観光振興の促進を図り、世界水準の観光形成等に取り組んでまいります。

また、近年激甚化・頻発化する自然災害、切迫する日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生などに備え、治水・道路・農業基盤における防災・減災、国土強靱化の推進により災害に強い地域づくりを構築します。さらに、ゼロカーボン北海道等の実現に向けた先導的な取り組みや、建設現場の魅力や生産性の向上に図るためi-Constructionを推進により、強靱で持続可能な国土の形成を目指します。

地域の関係者と協働のもと、豊かで災害に強く安全で安心な暮らしを支えていけるよう、さらなる十勝地域の発展を目指して各種事業を着実に進めてまいります。

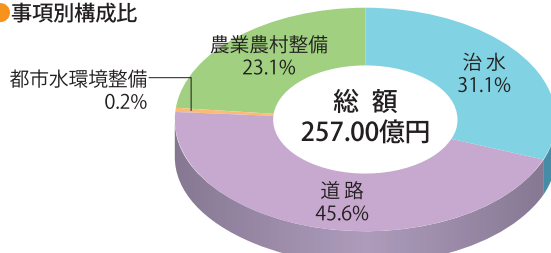


帯広開発建設部事業費総括表

| 事項 | 事業費 |
|---------|-----------|
| 治水 | 7,987百万円 |
| 道路 | 11,731百万円 |
| 都市水環境整備 | 45百万円 |
| 農業農村整備 | 5,937百万円 |
| 計 | 257.00億円 |

※1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 ※2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

事項別構成比



※. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

十勝をつなぐ「生産空間」を支える社会資本整備

～総合的な視野に立った社会資本整備によって、農業王国十勝の発展に寄与しています(小麦の例)～

十勝管内では約23.3万tの小麦が収穫され、全国シェアの約25%を誇ります。当管内で収穫された小麦のみならず、オホーツク管内で収穫された小麦の一部も整備された道路を通り、十勝港から本州へ輸送されます。

○農業農村整備

農地や排水路等の整備により生産の向上と安定に貢献



○治水

安全性と速達性を図ることで確実な輸送を実現



○港湾整備

大型貨物船が安全に入港するための航路浚渫を実施



○港湾整備

大型貨物船が安全に入港するための航路浚渫を実施



防災に関する地域支援

職員派遣による支援

TEC-FORCE (Technical Emergency Control Force)

テックフォースとは「緊急災害対策派遣隊」のことです。

近年激甚化する大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援など、被災した地方自治体等の災害復旧を支援します。

令和2年7月豪雨災害では、北海道開発局から九州地方整備局管内へTEC-FORCEを派遣するなど、国土交通省が一丸となって被災地域の1日も早い復旧活動を支援しています。



被災状況調査(熊本県八代市)

リエゾン (Liaison)

リエゾンとは「現地情報連絡員」のことです。

大規模な災害が発生した場合、又は発生のおそれがある場合に地方自治体等に職員を派遣し、(1)災害情報や開発局への支援要望等の情報収集、(2)災害情報の提供、(3)災害対策用機械など、支援資機材等に関する連絡調整を行います。

帯広開発建設部では、平成28年8月の大雨災害時に、管内の9自治体に延べ70名の職員を派遣しました。



リエゾン活動状況(足寄町)

災害対策用機械による支援

災害時の緊急対応や情報通信手段の確保のための各種災害対策用機械を配備し、災害時には速やかに出動します。これらの災害対策用機械は地方自治体等の要請に基づき貸与することが可能です。

令和4年8月15日～16日にかけて前線と低気圧の通過により大雨となった際には、帯広市及び豊頃町に排水ポンプ車及び照明車が出動し、緊急排水支援を行いました。

このほか、地域の防災意識の向上を目的として、防災訓練や防災教育の場で災害対策用機械と災害時の支援活動について説明を行っています。



排水ポンプ車による排水支援(帯広市)



帯広工業高校での災害対策用機械を用いた防災教育(写真左から照明車、対策本部車、衛星通信車)